



ICTを活用した廃棄物管理システムを軸に 人と自然にやさしい環境づくりに貢献

ICT、処理管理、リサイクルの3つを軸に、環境ビジネスを積極展開

NTTグループの基幹系ネットワークを支え続けてきた実績、技術力を活かし、「One Stop ICT Partner」として多種・多様なサービスを提供するNTT-ME。同社では、企業の社会的責任（CSR）の重要性に加え、廃棄物の適法・適正処理に向けた規制強化の流れを受け、撤去通信設備処理の実績及びICTを活用した廃棄物管理システムをベースにした環境ビジネスを積極的に展開している。

「NTTグループの廃棄物処理で培ったノウハウを活かすとともに、得意領域であるICT×処理管理×リサイクルの3つを軸に、人と自然にやさしい環境づくりへの貢献を目指した環境ビジネスを積極展開しています。NTTグループに対しては、廃棄物処理を安心してすべて任せていただける委託先として機能すべく取り組んでいます。また、NTTグループ外での廃棄物適正処理推進に向けた取組みを加速しており、現在、廃棄物の処理確認サービス「産廃上手」と、生ごみを有効資源にリサイクルする“バイオランナー”の2つのサービス

を提供しています。」（環境・調達ビジネス部門長 井上 満広氏）

不法投棄を防止し、廃棄物の適正処理を推進する「産廃上手」

廃棄物の適正処理を確保するため、排出事業者が処理を委託する際には、マニフェスト（廃棄物管理票）管理が法律で義務づけられており、平成20年4月から報告義務が強化される。一方、廃棄物の不法投棄は後を絶たず、処理委託先の違法行為に起因するケースが多い。

NTT-MEは、排出事業者がその責任を果たすための有効な手段として、廃棄物の画像追跡システムを平成13年に開発し、NTTグループ内で運用してきた。この実績・ノウハウをさらに発展させ、埼玉



NTT-ME
ネットワークビジネス事業本部
アプリケーションビジネス事業部
環境・調達ビジネス部門長
井上 満広氏

と、廃棄物処理に係わる各々の事業者が役割を遂行することで廃棄物の発生から最終処分までの状況をGPSと画像によって確認できるようにしたのが、廃棄物画像追跡サービス「産廃上手」である（図1）。

「本サービスは、民間企業が行政の協力のもと構築した全国初のシステムです。本サービスは、廃棄物処理の全過程の“透明化”につながることから、廃棄物処理法で課せられている“廃棄物の発生から最終処分までを適正に管理しなければならない”という排出事業者の処理責任を果たすには極めて有効です。」（環境ビジネス担当課長 城所 啓二氏）

●「産廃上手」の導入効果

①廃棄物の発生から最終処分までの処

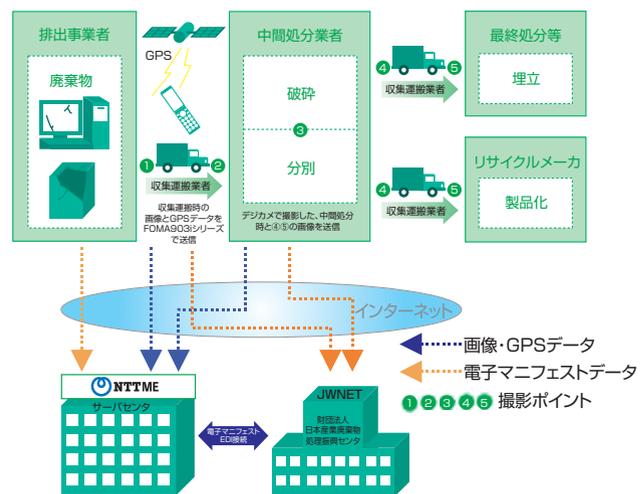


図1 「産廃上手」のサービス概要



NTT-ME ネットワークビジネス事業本部
アプリケーションビジネス事業部 環境・調達ビジネス部門
(左) 環境ビジネス担当課長 城所 啓二氏
(右) 環境サービス担当課長 杉井 賢一氏

理状況を画像とGPS機能で確認できるので、廃棄物の適正処理が推進され、不法投棄の防止につながる。

② 廃棄物の不適正処理の発生予防につながり、経営リスクを低減することができる。

③ 「産廃上手」に併せて電子 manifests を利用することで、従来の紙 manifests による伝票照合や5年間保存の保管場所確保などに比べ、事務処理の効率化が図れる。

NTT-MEでは、「産廃上手」を埼玉県内中心にASP方式で提供しているが、現在、他自治体への水平展開や大手排出事業者に対し積極的な営業活動を展開している。

生ごみを有効資源にリサイクルする「バイオランナー」

本年12月に強化される食品リサイクル法の遵守には、売れ残りや食べ残しといった生ごみを肥料や飼料に再資源化する技術やシステムが必要不可欠である。一方、旧態依然の焼却・埋立てによる生ごみ処理は、二酸化炭素増大、自然環境への負荷増大という観点からも大きな課題となっている。このような課題を解決

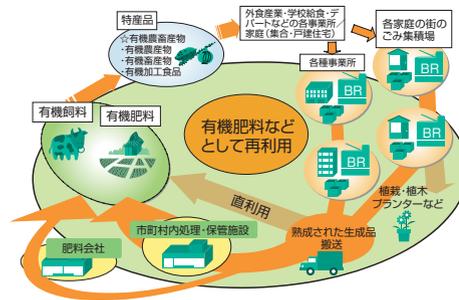


図2 「バイオランナー」によるリサイクルシステムイメージ

するシステムとして注目を集めているのが、NTT-MEが提供する食品残渣（ごんさ）処理システム「バイオランナー」である（図2）。

「バイオランナー」は、好気性微生物の働きを利用して、生ゴミを高速に発酵・分解し、肥料や飼料などを製造するシステムで、生ごみの有効資源化に加え、焼却処理に比べ二酸化炭素の発生を約98%削減できるという特長を持つ。

●市場での高い評価を背景に販売体制・営業力も強化

「バイオランナー」の導入が拡大しているが、実際に導入企業や自治体では高く評価している。例えば、福岡・天神のテナントビル「ソラリアプラザ」では、ビルから出る生ゴミをバイオランナーで堆肥にして佐賀県の農家が米を栽培し、収穫した米を「循環米」と呼び再びソラリアプラザ内のレストラン等で消費するサイクルを構築している。米の味も良いと評判である。また、神奈川県某市は、平成17年度と18年度、それぞれ2台ずつ市内の小学校に「バイオランナー」を導入し、学校給食の残渣を堆肥化して市内の農家に提供し、その農家で作った野菜を再び学校給

食として使うというリサイクルのループを完成させている。一方、バイオランナーの特約店であるNTT東日本-青森では、青森県農林総合研究センタ畜産試験場、青森市農林水産部と協力し、特産のりんごをジュースに加工した後の搾り滓

を「バイオランナー」で処理することで栄養豊かな飼料に変え、肉牛に与える実験を連携して行っており、試食の結果も好評という。

「バイオランナーに対するニーズの高まりを受け、私どもでは直営の販売力と特約店に対するサポート体制の強化に加え、ご利用いただいているお客様の追跡調査を実施し、買換え需要、口コミ需要の発掘を行うなど、バイオランナー事業の強化を図っています。」（環境サービス担当課長 杉井 賢一氏）

以上、NTT-MEが積極的に営業展開している2つの環境ビジネスについて紹介したが、これに加え同社では、セキュリティ処理を施したうえで使用済みパソコンのリユース/廃棄処理を一元的に行う「パソコンセキュリティ処理サービス」の提供に向け取り組むなど、環境ビジネスの拡大に注力している。

お問い合わせ先
(株)エヌ・ティ・ティ エムイー
ネットワークビジネス事業本部
アプリケーションビジネス事業部
環境・調達ビジネス部門
産廃上手担当 TEL : 03-3259-0374
E-mail : sanpai-jaws@ml.ntt-me.co.jp
バイオランナー担当 TEL : 03-5217-9090
E-mail : bio-runner@ntt-me.co.jp